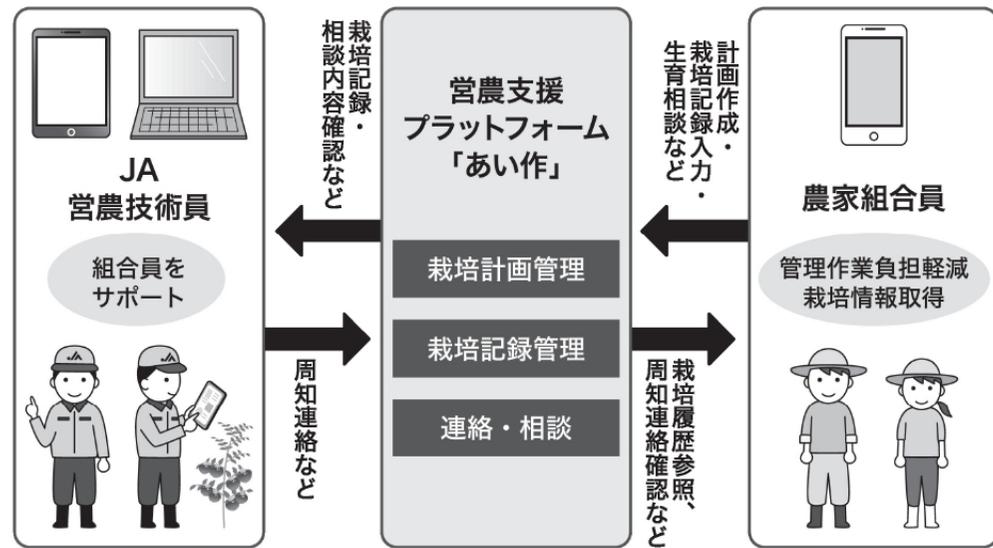


JAながの 営農支援システム「あい作」運用

農家とJA 情報共有



【ながの】JAながのは今年度から、組合員の営農活動の高度化と効率化を目指し、NTTデータの営農支援プラットフォーム「あい作」の運用を始めた。農家とJA双方が利用できるクラウドサービスで、パソコンやスマートフォン、タブレットを使って、営農情報の受発信、栽培記録の管理、営農相談などができる。運用イメージ図。現在は、JA生産部会員を中心に100人余りが登録している。部会を通じて利用を呼び掛け、普及していく方針だ。

技術向上へデータ活用

農家が入力した栽培情報を担当のJA営農技術員が把握することで、産地情報の「見える化」を実現。相談連絡機能により、双方のコミュニケーションも促進する。現在

は、JAから技術指導や生育・販売状況、気象情報、国の支援金情報、農作業安全啓発などを農家に発信している。今後は、農家が記録する栽培計画や栽培履歴な

どの管理簿を電子化するために、栽培品目や品種、作型などの基本情報データの整備を進める。データの蓄積・共有・活用により、生産技術向上と販売の強化につなげ

る。農家は、圃場（ほしよ）にいながらスマートフォンで農業使用基準の確認や作業の記録もできる。また、記録した栽培情報は、用途に応じて圃場単位、カレンダー形式、地図形式で確認できる。JAは、タイムリーな産地栽培情報が確認できる他、蓄積した産地情報データに基づいて営農技術の改善や営農指導力の向上を図る考えだ。